

令和5年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) ひろの認定こども園

観点	③自尊感情を育むとともに豊かな人権感覚を養う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	・スキンシップ活動を再開している。 ・前年度までの積み重ねで、特に年長児は「あれがしたい」「これがしたい」と積極性はあるが、自分の思いが強く、他児の意見を受け入れられないことがある。
目標	・スキンシップ活動を通して、安心感や自己肯定感を育む。 ・年齢に応じた生活や遊び、子ども主体での話し合いの中で、自己を認め友だちも認めることの経験を繰り返し、共生の心を養う。
目標達成に向けた具体的な取組内容	・毎日スキンシップの時間を設け、安心感や自己肯定感を育む。 ・誕生日会や帰りの会で友だちの良いところ探しを行うようにする。 ・季節の遊び（泥遊びの中で色氷や泥を使った絵画遊び、色水遊び等）や日々の製作、廃材あそび、ルールのある遊び等を通して他児と協力して体験や発見を積み重ねられるようにする。 ・グループ活動での話し合いや、トラブルが起きた時など、最後までじっくりと話し合いが行えるように時間や日にちを設ける。
成果	・友だちの頑張っている姿等に目が向くようになり、自然と「すごい」と認め真似をしたり、挑戦したりするようになってきた。 ・音楽会でのオープニングダンスを考えるにあたり、友だちからの共感や相槌など、友だちの思いに寄り添う姿が、自分の思いの発言を試みる際の安心感にもつながっている。 ・互いの意見を伝え合い、試行錯誤しながら様々な活動での体験を繰り返し行う中で、色々な考えや思いがあることに気づき、自然と傾きながら他児の意見にも耳を傾けるようになってきている。 ・異年齢児とのスキンシップを取り入れたことで、親近感を持ち、互いに声をかけたり、関わりが増えたりして、進級や入園で環境が変わることもたちが園生活に早く解け込む姿が見られる。
評価	年長児においては、自己の主張がだんだんと明確になる発達の時期ではあるが、何かの活動を考える時も、トラブルがあった時も、子どもたち同士の意見交換を大事にして、じっくりとよく話し合い、子どもたちの思いを大切に活動を進めている。また、コロナウイルスの影響から少しずつ解放され、スキンシップ活動を通して互いの親近感や安心感を高めつつ、対人関係の基本である「愛着形成」を育む活動も積極的に行っている。「愛着形成」は人が生きている上での対人関係の基礎となる部分であり、大いに評価できる取り組みである。